

## 金融機関の安全性や信頼性をチェックしましょう



あなたはどんな理由で金融機関を選んで  
いますか?右表を見ると、10年前も現在も「近  
所に店舗やATMがあり便利」「店舗が全  
国的に展開されている」といった、利便性  
を重視した回答が多いのが分かります。また、  
「経営が健全で信用できる」ことを重視す  
る人も増えてきています。  
私たちが金融機関の安全性や信頼性を確  
認する簡単な方法は、各金融機関の窓口  
などに置いてある「ディスクロージャー誌」  
を見ることです。ディスクロージャー誌のど  
こを見れば何が分かるのか、3つのポイント  
をご紹介しますので、金融機関選びにお役  
立てください。

調査項目	1992年度	1997年度	2002年度
近所に店舗やATMがあり便利	76.0(%)	73.2(%)	80.4(%)
経営が健全で信用できる	28.4	37.4	40.0
店舗が全国的に展開されている	27.5	27.5	25.8
勧誘員が熱心で印象が良い	14.1	10.0	8.3
各種手数料が他の金融機関より割安			6.7
金融アドバイザーの相談業務が充実	7.3	4.3	4.0
より収益性の高い金融商品を販売	6.5	4.1	2.9
インターネットバンキングなどが充実			2.5
金融商品が豊富で選択の幅が広い	5.2	3.8	2.4
テレビCM、ポスターなど印象が良い	1.0	1.0	1.4

金融広報中央委員会「家計の金融資産に関する世論調査」より  
3項目以内での複数回答 印は2002年度に新設

### 「ディスクロージャー誌」で分かる3つのポイント

- 1 利用者との信頼関係を知りたい時は  
預金・貸出金残高の推移をチェック
- 2 経営の健全性を知りたい時は  
自己資本比率をチェック
- 3 不良債権の状況を知りたい時は  
リスク管理債権比率をチェック

安定した預金・貸出金残高の増加は金融機関の信  
頼の証といえます。残高が順調に推移していれば、  
利用者の信頼を得ていることになり、今後の成長も  
期待できるといえます。また、合わせて自分のニ  
ーズに合った商品・サービスがそろっているかなど  
の確認も大切です。

自己資本比率は、貸出金や保有する有価証券などの  
総資産に占める、出資金や引当金などの内部資金(自  
己資本)の割合のことをいいます。仮に、この自己資本  
比率が6%だった場合、貸出金などの資産のうち6%が  
不良化したとしても、手元の資本で補えるということで、  
一般的にはこの比率が高いほど万が一の時の備えが  
厚く健全性も高いといえます。

計算上の「総資産」は一定のリスクを勘案した比率を乗じて計算しています。

総貸出金残高に占めるリスク管理債権の割合のことを  
いいます。リスク管理債権とは、何らかの理由により約  
定通りの返済が困難な取引先等に対する貸出金のこ  
とで、「破綻先債権」「延滞債権」「3ヵ月以上延滞債権」  
および「貸出条件緩和債権」があります。この比率が  
小さいほど経営の健全性が高いといえます。

上記の内容は、金融機関の選択ポイントの一例です。さらに、複数の金融機関を比べてみると経営状態がより分かりやすくなります。

